

中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	経済学部	身分	教授
氏名	鳴子博子		
NAME	NARUKO Hiroko		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記の通りご報告致します。

1. 研究課題

(和文) 女性の政治参画の阻害要因をフランス革命期の女性の「能動化と排除」から再検討する

(英文) Re-examination of factors inhibiting women's political participation

: Analysis of the “activation and exclusion” of women during the French Revolution

2. 研究期間

2022年度 ~ 2023年度

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度)

(和文)

日本では「女性活躍」が叫ばれてはいてもジェンダーギャップ指数ランキングが低位に留まり、真の男女平等社会の実現には程遠い。世界を見渡しても残された課題はなお多い。こうした現状認識から、本研究はデモクラシーと人権の歴史を大きく前進させたフランス革命期、特に1789年からジャコバン独裁期の94年までに焦点を当て、女性の政治参画を阻む要因の再検討を通し、女性たちの政治参画を進めるための知見を得ることを目的としている。

仏革命の最大の特徴は一部の者の権力闘争に終始せず、民衆が革命に主体的にかかわり革命の諸過程をつくっていったことにある。それゆえ議会中心の分析ではなく、民衆の集団行動に焦点を当てて研究を進めた。

研究成果の第一は、「フランス革命期における女性の『能動化と排除』—ヴェルサイユ行進から革命共和女性協会まで(『女性空間』(日仏女性研究学会)No.40、2023年2月)である。第二の研究成果として、準備中の「ルソー的視座から見たジャコバン独裁期の女性たち—ヴァンデの反乱と最高存在の祭典に焦点を当てて—」を完成させ、本学社研の「ジェンダーと政治、歴史、思想の交差点」チーム(幹事:鳴子)の研究叢書(2024年度中刊行)に掲載するとともに口頭発表も行い、本研究を完了させる予定である。女性の公領域での集団行動が女性の排除を促した逆説や強固なジェンダーバイアスの存在を強調しておきたい。

(英文)

During the French Revolution, women became active and engaged in collective action in the public sphere. Why were women soon excluded from the political sphere? This study analyzes the Women's March on Versailles, the Society of Revolutionary Republican Women, the War in the Vendée, and the Cult of the Supreme Being, and reveals the factors that continue to hinder women's political participation even today.